様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ３０ 年　 ６ 月　 ５ 日現在

機関番号：１４４０３
研究種目：挑戦的萌芽研究
研究期間：2015～2017
課題番号：１５Ｋ１２８１８

研究課題名（和文）世界に向けた情報発信とその影響に関する分析を基盤にした日本アナーキズム史の再構築

研究課題名（英文）Reconstruction of Japanese anarchist history based on the analysis of information dissemination to the world and its impact

研究代表者
田中　ひかる（Tanaka, Hikaru）

大阪教育大学・教育学部・教授

研究者番号：００２７２７７４

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,700,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、19世紀末から20世紀後半に至る日本のアナーキストたちが世界に向けた情報発信について、朝鮮、ロシア、ヨーロッパ、南北アメリカ大陸に関して、史資料を収集し、情報発信による国外に与えた影響だけでなく、情報の受信によって得た日本側の影響についてもその一端を明らかにした。以上の成果に基づき、従来は一国レベルでとらえられがちだった日本アナーキズム史を世界との関係の中でとらえることを可能とし、日本のアナーキズムをグローバルな現象の一部として位置づけることに成功した。

研究成果の概要（英文）：In this research, we collected, not only the materials of information dissemination by Japanese anarchists to the world, e.g.Korea, Russia,Europe and Americas, from the end of the 19th century to the second half of the 20th century, but we have also collected the materials of the information received by Japanese anarchists from the anarchists all over the world. Through analyses on these materials, we succeeded not only to clarify a part of the influence of the information send by Japanese anarchists to the world, but also the impact of the information from the anarchist all over the world to Japanese anarchists. Japanese anarchism have been tended seen only in the context of Japanese history. But,by clarifying this impact of interaction of information send by Japanese and world anarchists, we made it possible to explain the Japanese anarchist movement as a part of global phenomenon.

研究分野：社会思想史

キーワード：アナーキスト　アナーキズム　情報発信　トランスナショナル　社会運動　グローバル

１．研究開始当初の背景

欧米では近年、グローバルなアナーキズムの高揚という現象に刺激され、アナーキズム史を再構築すべきであるとの問題提起がなされている。そこでは、歴史上のアナーキズムを、1) 現代的な視点から、2) グローバルな枠組みに依拠して、3) 19 世紀から現在まで続く長期的な現象の一環として捉える、という理論的枠組みが提案されている。このような枠組みは、いまだ萌芽的であるため、今後、多くの事例研究と国際的な議論を通じて修正されていく必要があると提言されている。そのような議論の中で、欧米との交流を通じて独自の発展を遂げた日本のアナーキズムは、世界において重要な位置を占めると見なされている。しかし従来日本のアナーキズム史研究は、国民国家の枠組みの中で検討され、明治・大正期を中心に研究されてきた。その原因は、アナーキズムをグローバルかつ現代に連なる長期的な現象の一環として見る視点が欠如していることにある。他方、これまで研究代表者は、欧米のアナーキズムを研究する中で、1945 年以前、日本から欧米に向けて多くの情報が発信されたことを裏付ける手がかりを得ていた。また、2012-2014 年にとりくんだ挑戦的萌芽研究（「口述資料データベース構築に基づく現代日本アナーキズム史に関する検討」）で実施した聞き取り調査により、戦後日本のアナーキストが世界のアナーキストに向けて情報を発信し、両者の間に交流があり、そこから日本のアナーキズムが影響を受けていたという仮説を設定するに至っていた。こうして、20 世紀初頭から現在までの間に、日本から世界のアナーキストに向けて発信された情報を分析し、その影響を解明することを通じて、日本のアナーキズム史をグローバルなアナーキズム史の中に位置づけ再構築するという研究課題を着想するに至った。

２．研究の目的

本研究は、従来国民国家の枠組みで捉えられ、明治・大正期を中心にして検討されてきた日本のアナーキズム史を、19 世紀以来のグローバルなアナーキズム史の中に位置づけて再構築することを目的とする。同時に、この再構築を通じて本研究は、グローバルかつ長期的に持続した歴史的現象の一環として、日本のアナーキズムを位置づけ再構築することへの足がかりを作ることも視野のなかに入れる。

３．研究の方法

本研究では、20 世紀初頭から現在までの間に、日本のアナーキストから世界に発信された情報（書簡・定期刊行物・書籍・写真等もしくはそれについて報じた国外のアナーキストの機関紙等）を分析し、また、そのような情報の発信をきっかけにして生まれた日本と世界のアナーキストの交流、そして、そのような交流の中で双方が受けた影響を明らかにする、という方法を採用した。以上の目的を達成するために、日本のアナーキストが世界に発信した情報とネットワーク、及び相互の影響関係に関する研究を結節点としながら、研究代表者と研究分担者 5 名のチームによる共同研究とし、主な研究担当地域、主な対象領域・時代と結びつけて各自が研究を進めた。

４．研究成果

全体では〔雑誌論文〕31 件、〔学会発表〕29 件、〔図書〕7 件、〔その他〕11 件であるが、そのなかで研究に直接関わるあるいは補完するという意味で主要な成果は〔雑誌論文〕14 件、〔学会発表〕14 件、〔図書〕2 件、〔その他〕8 件である。これら主要な研究成果を大別すると（a）研究目的に極めて密接に関わるもの、（b）萌芽的という性格を持つために必要とされた、研究目的に直接関わらないが、研究目的の背景となる歴史状況・運動・思想・人物等に関わる研究成果がある。（a）は新たな論点・視点の提起と歴史的事実の発掘により、本研究で当初立てた仮説を検証したことにより、今後、さらに研究を進化・発展させる上で、重要な成果として評価できる。他方（b）は（a）の背景や関連事項を現代的な観点から検討し、本研究に携わる中で得た新たな視点からの分析の成果であり、また、本研究を進めるにあたり重要な示唆を与えることで、本研究を補完するものとして評価できる。以上に加えて（c）本研究を進めるにあたり研究代表者・研究分担者が検討した日本および世界のアナーキズムに関する歴史的背景や関連する事項に関する研究成果がある。以上、中核的（a）（b）およびそれらをさらに補完する（c）により、日本のアナーキズムをグローバルな枠組みに位置づけ再構築するという本研究が設定した仮説的な枠組みの妥当性を個別の事例によって証明するとともに、今後、この研究をさらに発展させる上での基盤を整備した。以下、主要な研究成果（a）（b）に関する概要である

（a）：1920 年代に日本のアナーキストが世界に向けて発信した情報とその影響の事例を大杉栄らの虐殺報道に関して分析し、その影響の一端について明らかにした〔学会発表〕（11）を基礎にした〔雑誌論文〕（8）がある。次に、ロシア人アナルコ・サンディカリストのニコライ・ペトロフが日本滞在中にアナーキストとなりその後ロシア革命で活躍するという新事実の発見が〔雑誌論文〕（10）を基礎とした〔学会発表〕（5）、その概要〔雑誌論文〕（5）であり本研究の成果の中でも特筆に値する。さらに〔学会発表〕（10）はスイス・ローザンヌ CIRA（国際アナーキズム調査センター）に所蔵される 20 世紀末以降に活躍した日本人アナーキズム研究者・アナーキストの資料に関する報告であり、

これも本研究の重要な成果である。これら中核的な成果とともに、アナーキズムを現代的な視点から見直す作業、過去から現在に至るグローバルなアナーキズムの文脈の中に日本のアナーキズムを位置づける作業として〔雑誌論文〕（1）（2）（6）（9）（11）（12）、〔学会発表〕（1）～（4）（7）（8）（11）～（13）があり、従来の研究と異なる新しい枠組みを提起した研究として評価できる。

（b）：大杉栄等の歴史上のアナーキストに関する検討としては〔学会発表〕（6）、〔その他〕（5）～（8）、アナーキスト・アナーキズム、それらに接点を持つ人物・運動・芸術、あるいはロシア革命など歴史的背景およびそれらに関する近年の研究についての分析としては〔雑誌論文〕（3）（4）、〔図書〕（2）、〔その他〕（1）～（4）、日本のアナーキズムを受容した時代的背景となる朝鮮の独立運動・共産主義運動に関する研究成果として〔雑誌論文〕（7）、〔図書〕1 がある。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 31 件）

（1）田中ひかる「現代のアナーキズムから見たロシア革命」『ピープルズ・プラン』vol. 77、2017 年、44-49 頁。査読無

（2）田中ひかる「現代アナーキズムから見たロシア革命」『初期社会主義研究』第 27 号、2017 年 12 月、5-21 頁。査読有

（3）飛矢崎雅也「知識人のロシア革命の受容に関する一考察—ロシア革命と日本」『歴史地理教育』No.871、2017 年、10-15 頁。査読無

（4）山中千春「反・『愚者の死』というスタンス—野口存彌の読む佐藤春夫（その一野口書簡と山中の春夫論）」『群系』第 39 号、2017 年、44-84 頁。査読無

（5）山本健三「ロシアの知日アナルコ＝サンディカリスト、ニコライ・ペトロフ＝パヴロフの手記」『初期社会主義究』第 27 号、2017 年、65-71 頁。査読有

（6）山本健三 ‘М.А. Бакунин в глобализирующемся мире’, *СОЛОВЬЁВСКИЕ ИССЛЕДОВАНИЯ*, 2 (54), 2017, pp.104-110: http://ispu.ru/files/SI_254-2017.pdf 査読有

（7）小野容照「朝鮮独立運動とソヴィエト政府、コミンテルン」麻田雅文編『ソ連と東アジアの国際政治 1919-1941』みすず書房、2017 年、78-107 頁。査読無

（8）田中ひかる「大杉栄たちの虐殺を世界に伝えたアナーキスト・ネットワークについて」『初期社会主義研究』第 26 号、2016 年、34-53 頁。査読有

（9）山本健三 ‘Апология и/или критика насилия: к 135-летию со дня рождения корейского анархиста Син Чхэхо (1880-1936)’, in: *Прямухинские чтения 2015 года*、2016 年、pp.177-188。査読無

（10）山本健三「日本のアナルコ・サンディカリストと「大連流刑囚コミューン」」『北東アジア研究』第 28 号、2017 年、65-81 頁。査読無

（11）飛矢崎雅也 ‘Freedom in Community: Osugi Sakae’s Concept of Freedom’, CONCEPTS AND CONTEXTS IN EAST ASIA, No.4, 2015, pp.63-77. 査読無

（12）飛矢崎雅也「大杉榮の自由論再考」『歴史地理教育』第 836 号、2015 年、52-53 頁。査読無

（13）山本健三 ‘К. Шмитт и М.А. Бакунин’, in: *SCHOLA-2015*. Под ред. А. Ю. Шутова и А. А. Ширинянца. Сост. А. И. Волошин. — М.: Издательство «Политическая энциклопедия», 2015, pp.302-308. 査読無

（14）山本健三 ‘«Религиозный вопрос» в японской социалистической печати начала XX века’, in: *Ценностные ориентиры современной журналистики. Под ред*. доцента Е.К. Рева. – Пенза: Изд-во ПГУ, 2015. pp.125-129. 査読無

〔学会発表〕（計 29 件）

（1）田中ひかる「ロシア出身のユダヤ系移民によるアナーキズム運動－人の移動と思想・運動の形成－」第 61 回ロシア史研究会年次大会、2017 年 10 月 14 日、東京大学駒場キャンパス

（2）田中ひかる“Japanese Anarchistic Social Movements in Global and Historical Perspective”, The 2017 Biennial Conference of the Japanese Studies Association of Australia, June 29, 2017, University of Wollongong.

（3）田中ひかる ‘Die Geschichte und Gegenwart des japanischen Anarchismus’, 2017 年 3 月 25 日, Allgemeines Syndikat Dresden, Dresden/ Germany.

（4）田中ひかる「趣旨説明　アナーキズムから見たロシア革命」シンポジウム「アナーキズムから見たロシア革命」（初期社会主義研究会、関西アナーキズム研究会、科研費「世界に向けた情報発信とその影響に関する分析を基盤にした日本アナーキズム史の再構築」共催）、2017 年 3 月 4 日、明治大学和泉キャンパス

（5）山本健三「ロシアの知日アナルコ・サンディカリスト、ニコライ・ペトロフ＝パヴロフの手記」シンポジウム「アナーキズムから見たロシア革命」（初期社会主義研究会、関西アナーキズム研究会、科研費「世界に向けた情報発信とその影響に関する分析を基盤にした日本アナーキズム史の再構築」共催）、2017 年 3 月 4 日、明治大学和泉キャンパス

（6）飛矢崎雅也「内山愚童—大逆事件と神奈川県足柄下郡」報徳ゼミナール、2016 年 7 月 10 日、報徳博物館

（7）飛矢崎雅也「大杉栄と現代」2016 年 7

月 2 日、シンポジウム「大杉栄と現代」(「大杉栄と現代」企画会議主催)、明治大学和泉キャンパス
(8) 山中千春「大杉栄の革命と恋愛観」2016 年 7 月 2 日、シンポジウム「大杉栄と現代」(「大杉栄と現代」企画会議主催)、明治大学和泉キャンパス
(9) 山中千春「ロシア革命とアヴァンギャルド」、シンポジウム「アナーキズムから見たロシア革命」(初期社会主義研究会、関西アナーキズム研究会、科研費「世界に向けた情報発信とその影響に関する分析を基盤にした日本アナーキズム史の再構築」共催)、2017 年 3 月 4 日、明治大学和泉キャンパス。
(10) 櫻田和也「スイス・ローザンヌ CIRA 所蔵資料について」関西アナーキズム研究会・科研費「世界に向けた情報発信とその影響に関する分析を基盤にした日本アナーキズム史の再構築」研究会、2016 年 10 月 2 日、大阪教育大学。
(11) 田中ひかる「虐殺を世界に伝えたアナーキストの情報ネットワーク＋IWW コネクションについて」静岡県近代詩研究会 2015 年 9 月例会、2015 年 9 月 19 日、静岡県男女共同参画センターあざれあ。
(12) 山本健三 'Michael Bakunin's Paradoxical Version of the 'Yellow Peril', ICCEES IX World Congress, August 6, 2015.
(13) 山本健三 Апология и/или критика насилия: к 135-летию со дня рождения корейского анархиста Син Чхэхо (1880-1936) // Прямухинские чтения – 2015 , Прямухино, 12 июля 2015.
(14) 飛矢崎雅也「自由としての共同性：大杉栄における自由の意味について」Project for Intercommunication of East Asian Basic Concepts 2015 年 5 月 22 日、翰林科学院

〔図書〕(計 7 件)
(1) 小野容照他『越境する革命と民族（ロシア革命とソ連の世紀５）』岩波書店、2017 年、326 頁。
(2) 山中千春『佐藤春夫と大逆事件』論創社、2016 年。

〔その他〕(計 11 件)
(1) 飛矢崎雅也「W-Culture 『石川三四郎と日本アナキズム』」『早稲田学報』復刊第 71 号第 1 号、2017 年、62 頁。査読無
(2) 山中千春「芸術に死を—シンポジウム『アナーキズムから見たロシア革命』」『初期社会主義研究』第 27 号、2017 年、105-109 頁。査読有
(3) 山中千春「栗原康著『村に火をつけ、白痴になれ　伊藤野枝伝』、田中伸尚著『飾らず、偽らず、欺かず　管野須賀子と伊藤野枝』」『初期社会主義研究』第 27 号、2017 年、217-225 頁。査読有
(4) 山中千春「書評『峯尾節堂とその時代』」『初期社会主義研究』第 26 号、2016 年、254-257 頁。査読有
(5) 田中ひかる「バクーニン生誕 200 周年記念集会参加記」『アナキズム』第 19 号、2015 年、32-60 頁。査読無
(6) 田中ひかる「クロポトキンの生涯について」『大杉栄全集』第 11 巻、ぱる出版、2015 年、511-533 頁。査読無
(7) 山中千春「「美しい」と彼は言った」『大杉栄全集月報』7、ぱる出版、2015 年、査読無、6-8 頁。
(8) 山本健三「大杉栄の外国語学習」『大杉栄全集月報』12、ぱる出版、2015 年、7-8 頁。査読無

６．研究組織

(1)研究代表者
田中　ひかる（TANAKA, Hikaru）
大阪教育大学・教育学部・教授
研究者番号：00272774

(2)研究分担者
飛矢崎　雅也（HIYAZAKI, Masaya）
日本女子大学・家政学部・研究員
研究者番号：80909432

山中　千春（YAMANAKA, Chiharu）
日本大学・芸術学部・研究員
研究者番号：00598104

櫻田　和也（SAKURADA, Kazuya）
大阪市立大学・大学院文学研究科
研究者番号：70555325

山本　健三（YAMAMOTO, Kenso）
島根県立大学・総合政策学部・准教授
研究者番号：20737530

小野　容照（ONO, Yasuteru）
京都大学・人文科学研究所・助教
研究者番号：00705436